

芸 術

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

北海道教育委員会は、平成11年3月の高等学校学習指導要領の改訂に伴い、その趣旨の徹底を図るとともに、創意工夫を生かした教育課程の編成・実施に資するため、平成11年度から、各年度において「新教育課程編成の手引」を作成し、研究協議会を開催してきた。各年度の手引の概要については、次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 11 年 度	1 科目編成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 (1) 目標 (2) 各科目 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・科目構成及び必修科目について ・改訂に当たって重視した点について ①学習段階が進むにしたがって選択幅を拡大したこと、②我が国やアジアを始めとした諸外国の芸術の取扱いを重視したこと、③「芸術の幅広い活動を通して」という学習内容の具体的な在り方を示したことなど ・各科目の目標に係る改善点と趣旨について ・各科目の内容の構成とその取扱いについて
12 年 度	1 全般的事項 2 音楽Ⅰ・音楽Ⅱ・音楽Ⅲ 3 美術Ⅰ・美術Ⅱ・美術Ⅲ 4 工芸Ⅰ・工芸Ⅱ・工芸Ⅲ 5 書道Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲ (一問一答形式)	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科の目標の趣旨について ・鑑賞をすすめる際の留意点について ・各科目における指導上の課題及び留意事項について ①我が国の伝統的な歌唱・和楽器の取扱い、②日本の美術・映像メディア表現の取扱い、③プロダクト制作の取扱い、④漢字仮名交じりの書の取扱いなど
13 年 度	1 芸術科の教育課程の編成 2 音楽の指導計画の作成と内容の取扱い 3 美術の指導計画の作成と内容の取扱い 4 工芸の指導計画の作成と内容の取扱い 5 書道の指導計画の作成と内容の取扱い 6 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の指導計画作成上の留意点や内容の取扱いについて ①生徒の主体的な学習の推進、②選択幅の拡大、③指導と評価の一体化、④鑑賞と表現の調和の取れた幅広い活動、⑤新設の内容の積極的な導入など ・各科目の年間指導計画例について ・学校設定科目を開設する際の留意点について
14 年 度	1 芸術科の学習指導の改善 2 芸術科の評価の工夫 (1) 評価の基本的な考え方と改善の視点 (2) 評価の観点と趣旨 3 学習指導案の作成 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の改善の要点について ①生徒の選択履修や発展的な学習を可能にする教育課程編成、②表現活動や鑑賞活動の充実、③学校図書館等を活用した指導計画の工夫・改善など ・指導と評価の一体化の重要性及び評価の改善の視点等について ・評価の四観点とその趣旨について ・各科目における学習指導案例について ・芸術科と総合的な学習の時間の関連と活動例

2 学習指導の改善・充実

(1) 個に応じた指導の工夫

芸術科においては、生徒の「生きる力」を育成するため、芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養うことが求められている。

そのためには、生徒が自らの興味・関心、進路希望等に応じ、より深く学んだり、より幅広く学んだりすることのできる体制を整えることが大切であり、芸術のⅡやⅢを付した科目を選択履修できるよう配慮したり、生徒や学校及び地域の実態に応じた学校設定科目を開設したりするなど、選択幅の広い教育課程を編成することが重要である。

また、生徒一人一人が感性を豊かに働かせ、個性を生かして、創造的な学習活動を積極的、主体的に進めるためには、個に応じた指導の一層の工夫・改善を行うことが重要

である。このことを踏まえ、各科目の指導に当たっては、次のような点に留意する必要がある。

ア 学習目標及び学習内容等の明確化

生徒一人一人が題材に興味を持ち、「何を」「どのように学ぶか」を意識しながら主体的に学習することができるよう、1年間の学習についてのシラバスを作成、配布するなど、ガイダンスの内容の充実を図る。

イ 基礎的・基本的な事項の確実な定着

豊かで多様な個性は、基礎・基本の学習の上に成り立つものであり、基礎・基本を確実に身に付けさせるという視点から、指導内容を精選、焦点化するとともに、必要に応じてグループ別指導や個別指導を取り入れるなど、指導方法、指導形態を工夫する。

ウ 教材の工夫

学習が知識や技能の習得のための学習にとどまらないようにするため、教師の創意による多様な教材を提供するとともに、生徒一人一人がそれぞれの興味・関心に合った教材を選択することができるような学習の場を設定する。

エ マルチメディア機器等の活用

コンピュータや情報通信ネットワーク等を指導に生かし、生徒一人一人の興味・関心を一層喚起するとともに、表現・鑑賞活動の幅を広げる。

オ 地域の施設、人材等の活用

生徒の個性や能力を伸ばさせるため、学校図書館などの地域の施設や優れた技能を持つ地域の人材の活用を図るなど、多様な学習活動を設定する。

(2) 指導と評価の工夫・改善

芸術科の評価の観点は、全ての教科に共通する四つの観点を基本に、芸術科の特性を踏まえ、「関心・意欲・態度」、「芸術的な感受や表現の工夫」、「創造的な表現の技能」、「鑑賞の能力」とされている。各学校においては、これら四つの芸術科の観点を十分に踏まえ、生徒の実態や科目の目標・内容にあわせた観点別の評価規準を作成し、評価の客観性を高めるとともに、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価を取り入れるなど、生徒の学習意欲を高める評価方法の工夫・改善を行うことが大切である。

また、評価を後の指導に生かして授業を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導と評価の一体化を進めることが重要である。

評価方法の工夫・改善の例	
音楽 I	<ul style="list-style-type: none"> ・【実技練習カード】～器楽曲の練習において、毎回の授業で各自が達成した段階別の目標のカード（最初に配布済）を切り取り、ミュージックノートに貼りつなげる。棒グラフ状につなげることで、生徒自身が目標到達の度合いを視覚的に確認できる。 ・【題材別ガイダンスプリント】～新しい題材の導入時において、指導目標と評価規準、評価方法をプリントで明確に説明し生徒の学習意欲を高める。
美術 I	<ul style="list-style-type: none"> ・【学習記録表】～毎時間の学習内容を記録用紙に記入することで授業の到達目標を明確にし、各自の制作進度を明確に把握する。整理段階では授業の感想や反省を記入し、関心・意欲・態度などをABCの3段階で自己評価する。 ・【制作ファイル】～デザインの授業におけるアイデアスケッチや構想練りのプリント、完成予想図、自主研究課題など、制作のために使用した資料をファイルにまとめる。
書道 I	<ul style="list-style-type: none"> ・【単元別制作カード】～単元毎の学習活動計画を示したカードへ生徒が学習内容や自己評価を記入することにより、生徒自らが学習到達度を知ることができる。 ・【プロセスカード】～創作の授業において、ひとつのテーマにそって作品の構想や感想、改善点等を記入することで作品完成までの学習の積み重ねの様子が確認できる。

(3) シラバスの活用

ア 音楽 I のシラバスの例

教科名	芸術		科目名	音楽 I
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。			
履修学年	第1学年	学科・コース	〇〇〇〇	
単位数	2単位	授業形態	全体指導（一部グループ及び個別指導）	
教科書	〇〇〇〇	副教材等	リコーダーテキスト、ギターテキスト等	
1 学習の目標				
(1) 中学校での学習を基盤として、更に、個に応じた学習目標を設定し、音楽活動の充実を目指します。 (2) 音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付けます。 (3) 音楽的な感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムの美しさを感じ取りながら、表現する能力を養います。 (4) 様々なジャンルの音楽文化について、その歴史的・文化的な意味と価値を理解し、音楽を愛好する心情を育てます。				
2 学習内容と進め方				
(1) 表現の分野では、基本唱法・基本奏法を習得します。 (2) 鑑賞の分野では、作品の特徴を捉え、感じたことをまとめたり、歴史的背景を調べてレポートとして提出します。 (3) 授業での活動を自ら確認し、また今後の方向を組み立てられるようポートフォリオを作成します。 (4) 既存の曲を表現したり鑑賞した知識を参考に、オリジナル作品の創作及び演奏発表をします。				
3 学習の留意点				
(1) 授業に関する物品・資料は大切に扱きましょう。 (2) 歌唱・器楽においては、基本を大切に、技能の向上を目指しましょう。 (3) 授業の中で様々な作品に出会い、新たな感動を体験しましょう。 (4) 表現活動の場では、積極的に取り組んで個性を発揮しましょう。 (5) 我が国や諸外国の文化への理解を深めましょう。				
4 評価の方法				
(1) 表現では、実技テストを行います。主に歌唱は、曲種に合った発声表現を、器楽は、曲想(スラーやスタッカート等のアーティキュレーション)に合った技能表現を評価します。また、日常の学習活動への参加態度もあわせて総合的に評価します。 (2) 鑑賞では、音楽の多様な効果から感じたことをまとめたり、作品の背景等を調べて提出されたレポートの内容を評価します。				
5 授業計画				
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
4	<input type="checkbox"/> 授業ガイダンス 1h <input type="checkbox"/> 校歌練習 2h <input type="checkbox"/> 歌唱 4h ～日本のポピュラーソング 日本歌曲、民謡～ 「風になりたい」他 「この道」他 「ソーラン節」他	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容・到達点を確認し、どのように参加するかを理解します。 校歌を覚えて豊かな声で歌います。 歌詞や心情を感じ取り、曲種に応じた発声の工夫をします。 楽曲の特徴や時代背景を調べ、まとめます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 姿勢や呼吸法を意識しているか。 視唱力を伸ばそうと努力しているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 曲想を感じ取り、唱法の工夫をしているか。 【創造的な表現の技能】 曲種に応じた発声を身に付けているか。 【鑑賞の能力】 楽曲の特徴や時代背景をまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を意識しましょう。 自然な呼吸法を身に付けましょう。 ジャンルや好みにかかわらず、色々な声の響きを作りましょう。 曲の生まれた地域や時代背景を調べましょう。 実技試験は4時間目に行います。

月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
5	<p>□器楽 4h ～和楽器(箏)に挑戦～ 「さくら」(平調子)</p> <p>「わらべ唄」</p> <p>「ソーラン節」 「よさこい節」</p> <p>「夏の思い出」の合奏</p> <p>「六段の調」</p> <p>□鑑賞 1h 雅楽「蘭陵王」 箏曲「乱輪舌」 琴古流尺八本「黒鶴鈴慕」</p> <p>DVD</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の構造を理解します。 ・調弦の仕方を理解します。 ・幾つかの奏法を理解します。(すくい爪、散し爪) ・曲に必要な調弦をし、演奏します。 ・様々な調弦方法を理解します。 ・箏の歴史を調べまとめます。 ・使用されている楽器の構造、歴史を理解します。 ・楽曲の生まれた歴史的背景を理解します。 ・楽曲の標題から、情景を理解します。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律を確認しながら、調弦しているか。 ・姿勢、奏法を身に付ける工夫をしているか。 <p>【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語のフレーズを感じ取り、表現を工夫しているか。 ・急がずに、「間」を感じて演奏しているか。 <p>【創造的な表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奏法の工夫など仲間と協力し、合奏ができるか。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の特性と表現上の効果をもとめることができるか。 ・楽曲の歴史的背景を理解し、まとめることができるか。 ・我が国の伝統音楽の種類と特徴を理解し、まとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を、キーボードで確認しながら、調弦しましょう。 ・音を出しながら爪の使い方を工夫しましょう。 ・不自然な力が入らないよう、音を聴きながら確認しましょう。 ・調弦をしながら、ハーモニーを合わせましょう。 ・歌詞をイメージしながら、音のメリハリを表現しましょう。 ・参考演奏から「間」を感じましょう。 ・初めて知った楽器のデッサンをしましょう。 ・和楽器の発祥を含め、歴史を図書館やインターネットで調べましょう。
6	<p>□器楽 4h ～アルトリコーダー～ 「グレード10～1級に挑戦」</p> <p>□器楽 4h ～リコーダー合奏～ 「パッヘルベルのカノン」</p> <p>□鑑賞 2h ～パイプオルガン作品～ 「オルガンは大きなリコーダー」</p> <p>DVD</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度の違う曲を10段階用意(グレード)し、各自クリアしていきます。 ・読譜力の伸長、運指を身につけます。 ・循環コードを感じながら、仲間と協力し、音楽の広がりを楽しみます。 ・オルガンの響き、構造を理解します。 ・楽曲の歴史的背景を理解します。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽経験に合わせ、目標を設定し技能を伸ばそうとしているか。 <p>【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考演奏からアーティキュレーションを聴き取り、曲種にあった奏法を工夫しているか。 <p>【創造的な表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンポに合わせた運指が身に付いているか。 ・リズムと一致したタンギングが身に付いているか。 ・カノンの響きを楽しみ、奏法を工夫しているか。 ・テンポ設定やアーティキュレーション等合奏における表現を工夫しているか。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オルガンの構造をまとめることができるか。 ・バロックから現代までのオルガン作品を聴き、歴史的背景や特徴をまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一曲を通して吹けるようになったら先生に聴いてもらいましょう。 ・テンポ・リズムを大切にしましょう。 ・フレーズに合ったタンギングを意識しましょう。 ・アーティキュレーションに注意しましょう。 ・難しい箇所は、諦めずゆっくり練習しましょう。 ・自分のパートに責任を持って取り組みましょう。 ・演奏可能なテンポ設定をしましょう。 ・吹き方が統一できるよう仲間と工夫しましょう。 ・互いの演奏を鑑賞して、評価しましょう。 ・様々なオルガンの音色を聴いて、その効果をもとめましょう。 ・時代・作曲者によって作品の違いをもとめましょう。
7	<p>□合唱 4h ～ボイスアンサンブル～ 「日本民謡づくし」 「Oh Happy Day」</p> <p>PA機材用意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループを作ります。 ・自分のパートの旋律とリズムを覚えます。 ・仲間とともに、響きをつくりあげます。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民謡の音階を理解し自分のパートを覚えて歌う事ができるか。 <p>【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音程やバランスを感じ取り曲が仕上げられているか。 <p>【創造的な表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲種に応じた、発声の工夫をしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のパートは、キーボードで確認しましょう。 ・仲間の声聴けるように心がけましょう。 ・録音をし、改善に役立てましょう。 ・民謡やゴスペルの「力強さ」を表現しましょう。 ・実技試験は4時間目に行います。
8	<p>□鑑賞 2h 「天使にラブソングを2」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴスペルやR&Bを理解し、音楽を通して生徒達が成長していく姿を楽しみます。 	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の特徴や歴史を理解しまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画を見て、使われている音楽の特徴や歴史をまとめましょう。
9	<p>□歌唱 6h ～西洋の音楽～ 「野ばら」 「Ich liebe dich」 「春への憧れ」 「子守歌」 「Caro mio ben」 「Je tu veux」</p> <p>□鑑賞 2h オペラ「カルメン」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・曲種に応じた発声を工夫します。 ・歌詞及び曲想を把握し表現の工夫をします ・西洋音楽の特徴(言語・和声)を理解します。 ・音楽から西洋の文化を理解します。 ・曲の美しさを感じ取り、役柄の性格・心情を音楽がどのように表現しているかを感じ取ります。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢・呼吸法を意識しているか。 <p>【芸術的な感受や表現の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容を感じ取り、原語で歌うことができるか。 <p>【創造的な表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲種にあった発声を身に付けているか。 <p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・歴史、地理的背景をまとめることができるか。 ・音楽の種類と特徴をまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原語に挑戦しましょう。 ・日本の歌とは違った発声を感じ取り、身に付けましょう。 ・音楽地図を作り、作曲家や年代をまとめましょう。 ・実技試験は6時間目に行います。 ・役柄と性格をまとめましょう。 ・ジプシー音楽の特徴をまとめましょう。

月	単 元	具体的な学習内容	評価の観点	備 考
10	<input type="checkbox"/> 器楽 4 h ～ギター～ ・音階を弾く。 ・旋律を弾く。 ・コードを学ぶ。 ・ストローク奏法 ・アルペジオ奏法 <input type="checkbox"/> 鑑賞 1 h 「エリック・クラプトン」 「村治香織」「木村大」 <input type="checkbox"/> DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターの調弦方法や基本奏法を理解します。 ・音階やコードネームを理解します。 ・クラシックからエレキギターまで、表現の効果を理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・基本奏法を理解し、弾くことができるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・響きを聴きながら、奏法を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・簡易な旋律、伴奏をすることができるか。 【鑑賞の能力】 ・ギターの構造、響きの違いをまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・右手の使い方を、理解しまとめましょう。 ・音階を、フレットの間隔で理解しましょう。 ・旋律を弾きましよう。 ・押さえられるコードで、弾き語りができるように挑戦しましょう。 ・実技試験は、4時間目に行います。 ・ギターの種類と演奏上の効果をまとめましょう。
11	<input type="checkbox"/> 表現・鑑賞 6 h ～アジアの音楽～ 「茉莉花」 「アリラン」他 <input type="checkbox"/> 表現・鑑賞 3 h ～アフリカの音楽～ 「Mede brebre masi ta the lion sleeps tonight」 「グリオの音楽」 「トーキングドラムと太鼓こたば」 <input type="checkbox"/> 創作 4 h ～オリジナル曲の作曲、編曲、演奏～	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的・歴史的背景を踏まえ、諸民族の文化を理解します。 ・民族楽器（打楽器）を製作し体験します。 ・音階の特徴を調べ、理解します。 ・8小節以上の作曲をし、提出します。 ・音階、コード、歌詞による創作の方法を学習し、作品を提出します。 ・自分やグループで創作した作品を演奏します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・音階の特徴をまとめることができるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・曲想、発声を感じ取り表現を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・民族楽器を製作し、奏法を工夫することができるか。 【鑑賞の能力】 ・各国の地理・歴史や音楽の特徴をまとめることができるか。 【関心・意欲・態度】 ・いくつかの創作の方法を理解し、選択できるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・旋律に対する和音、伴奏を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・創意、工夫が見られるか。作品を演奏することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音階の特徴を調べて、まとめましょう。 ・原語に挑戦しましょう。 ・音楽地図を作り、音楽、楽器の特徴や歴史をまとめましょう。 ・材料を工夫し、個性的な楽器を製作しましょう。 ・創作の方法を理解しましょう。 ・自分に合った創作の方法を選択しましょう。 ・演奏可能な楽器で自分や仲間間の作品を演奏してみましょう。
12	<input type="checkbox"/> 合唱 3 h 「それが涙というのなら」 「大地讃頌」 <input type="checkbox"/> 器楽 3 h ～トーンチャイム～ 「クリスマスソング」	<ul style="list-style-type: none"> ・パートに分かれ音取りをします。 ・曲全体の構造を把握します。 ・合唱を録音し他のクラスと聴き比べます。 ・グループに分かれ、担当する音を分担します。 ・各グループの演奏を聴き合います。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・姿勢や発声法を意識しているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・ハーモニーを感じながら表現しているか。 ・リズムを把握し、演奏しているか。 【創造的な表現の技能】 ・曲想に応じた楽器の奏法を身に付けているか。 【鑑賞の能力】 ・他の演奏を聴き、感想をまとめたり、評価することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートに分かれ、キーボードで音取りをしましょう。 ・録音をして、改善する部分を確認しましょう。 ・トーンチャイムの分担を決めましょう。 ・曲がスムーズに流れるよう工夫しましょう。
1	<input type="checkbox"/> 鑑賞 2 h ～オーケストラを知ろう～ 「運命」 「ボレロ」 「ラプソディー・イン・ブルー」	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラで使われる楽器を理解します。 ・年代や作曲者によって、形態や響きが変化することを理解します。 ・楽曲の概観から、情景を理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・オーケストラの組成や作品に興味・関心を持てるか。 【鑑賞の能力】 ・楽曲の形式や歴史的背景を理解し、組成による音色や効果等をまとめることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の名前や音色の特徴や役割をまとめましょう。 ・年代によって、楽器の組成がどのように変化するか、また、その効果についてまとめましょう。
2	<input type="checkbox"/> 総合音楽 5 h ～クラスコンサートを開こう～	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、グループで演奏形態を決め、自由なジャンルで発表会を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ・個人、グループで目標を設定し、練習することができるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・曲種に応じた表現方法を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・表現に効果的な技能を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の組み合わせ等、効果を考えて工夫しましょう。 ・得意な楽器を使ってアンサンブルを作りましょう。 ・演奏会が楽しいものとなるように、仲間と協力しましょう。 ・発表会は、5時間目に行います。
3	<input type="checkbox"/> まとめ 3 h ～1年間のまとめと次年度へ向けて～	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスコンサートのVTRを鑑賞し、互いに評価し合います。 ・次年度（音楽II）に向けて目標を立てます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【鑑賞の能力】 ・自己評価も含め、発表曲の感想をまとめたり、評価をすることができるか。 ・今年度の反省をもとに、次年度へ向けて具体的な目標を立てることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各演奏の感想と評価をつけましょう。 ・1年間の取組みを振り返ってみましょう。

イ 美術 I のシラバスの例

教科名	芸術		科目名	美術 I
科目の目標	美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。			
履修学年	第1学年	学科・コース	〇〇〇〇	
単位数	2単位	授業形態	全体指導・個別指導	
教科書	〇〇〇〇	副教材等	〇〇〇〇	
1 学習の目標				
(1) 美術の基礎を学び、表現や鑑賞の視点を広げ、さまざまな創作活動を体験します。 (2) 創作活動や鑑賞を通して自分の個性を伸ばし、感性を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てます。				
2 学習内容と進め方				
(1) 絵画・彫刻 ア 感じ取ったこと、自己の考え、夢や想像などをもとに主題を考えます。 イ 表現の形式を選び、どう作りあげるかの構想を立てます。 ウ デッサン力をつけ、色彩や構成、材料や用具の生かし方などの技能を学びます。 エ 意図に合わせた表現方法の工夫をします。 (2) デザイン ア 機能、美しさ、楽しさに配慮した主題を考えます。 イ さまざまな造形要素について理解し、どう作り上げるかの構想を立てます。 ウ 表現の形式を選び、色彩、材料や用具の生かし方などの技能を学びます。 エ 意図に合わせた表現方法の工夫をします。 (3) 映像メディア表現 ア 映像メディアの特徴を生かした主題を考えます。 イ 視覚的な伝達の効果について考えた表現の構想を立てます。 ウ 色光、機材等の基本的な使い方と活用を学びます。 エ 意図に合わせた表現方法や編集の仕方を工夫します。 (4) 鑑賞 ア 自然や芸術作品からそのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図に興味・関心を持ち、表現の工夫に生かします。 イ 美術が生活や自然と関連あることを理解したり、日本の美術の歴史と表現の特質について学びます。				
3 学習の留意点				
(1) 授業に必要な用具類を事前に準備して学習に臨みましょう。 (2) さまざまな資料や作品などを参考にして、構想を深めていきましょう。 (3) 制作は計画的に進め、最後まで集中して大切に仕上げましょう。 (4) 作品が完成したら自己評価をしたり他の作品を鑑賞したりして、お互いのよさを学びましょう。				
4 評価の方法				
完成作品をはじめ、制作カード、鑑賞カードや日常の学習活動への参加態度をもとに総合的に評価します。単元によって違いはありますが、基本的に次のような方法で評価します。 (1) 完成作品をもとに単元の目標がどのくらい達成されているかを評価します。 (2) 制作カードの記入内容をもとに、どのように自分の主題が設定され、どのように表現の工夫や技能が作品に反映されているかを評価します。 (3) 鑑賞カードの自己評価文や友人の作品に対する感想文などからどのように鑑賞力が深まっているかを評価します。 (4) 授業の準備や用具の扱いや日常の学習活動への積極性を評価します。				
5 授業計画				
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
4	□オリエンテーション 2 h	(1) 年間学習計画について ・これからの美術の学習内容に関心を持ち、一年間の制作や鑑賞の見通しをたてます。 (2) 学習の心構えについて ・学習の目標を明確にし、積極的に授業に参加する心構えを持ちます。 (3) 評価方法について ・課題や提出物、また評価の方法について理解します。	【関心・意欲・態度】 ・学習内容を理解し積極的に取り組むことができるか。 ・美術に関する興味関心を持つことができるか。	・オリエンテーションのプリントなどに基づいて説明します。 ・単元の作品例を紹介して、具体的な学習のイメージづくりを行います。 ・各自の作品ファイルを準備します。
	□鑑賞 「日本画の世界」 2 h	・日本画を中心とした伝統的な美術作品から、現代の日本画表現について学習します。また、日本美術と諸外国との関わりについて学習します。 ・鑑賞した作品についてカードにまとめます。	【鑑賞の能力】 ・日本画や諸外国の優れた作品に触れ、その背景にあるものを感じ取ることができるか。	・参考作品のスライドを鑑賞します。 ・鑑賞カードを使用します。

月	単 元	具体的な学習内容	評価の観点	備 考
5	□表現・絵画（日本画） 「団扇～花を描こう」 20h	(1) 花のスケッチ ・対象物をしっかりと観察し、花の美しさを感じとりながら描写します。 ・日本画材の特性や使い方を学びます。（水干絵具、膠について）	【芸術的な感受や表現の工夫】 ・対象物をよく観察し、構成を考え表現できるか。 【関心・意欲・態度】 ・日本画材の特性に興味を持ち、理解することができるか。	・制作カードを作成します。 ・色鉛筆を使い生花を描写します。 ・実際の日本画材やうちわを用いて説明します。
6		(2) 日本画の制作 ・日本画独自の表現方法を理解し、日本画の技法を使い表現を学びます。	【創造的な表現の技能】 ・画材の特性を考えて表現することができるか。	
7		(3) 完成作品の鑑賞 ・仕上がった友人の作品を見ながら、お互いのよいところを鑑賞し批評しあいます。	【鑑賞の能力】 ・互いの作品を鑑賞し、批評しあうことができるか。	・鑑賞カードへの記入を行います。 ◆校内作品展
8	□鑑賞 「環境問題を考える」 2h	・優れたポスターの鑑賞を通してポスターが伝達表現に果たす役割を考えます。	【鑑賞の能力】 ・ポスターデザインの持つ役割について理解することができるか。	・参考ポスターのスライドを鑑賞します。 ・鑑賞カードへの記入を行います。
9	□デザイン 「環境ポスターを作ろう」 26h	(1) 環境問題の調査と研究 ・現代社会における環境問題について、インターネットなどを使い調査し、ポスターのテーマの選定や構想に活かします。	【関心・意欲・態度】 ・環境問題について興味を持って調べ、関心を深めることができるか。	・課題レポートを作成します。 ・インターネットや学校図書館を利用して調査を行います。 ・新聞、雑誌などを活用します。
10		(2) アイデアスケッチ ・構想をもとにアイデアスケッチを描き、完成までの制作計画を立てます。	【芸術的な感受や表現の工夫】 ・設定したテーマについて、全体の構成を考えてアイデアスケッチを制作することができるか。	・制作カードを作成します。
11		(3) 色の基本について ・色彩についての基本的事項や配色の心理的機能について理解します。	【創造的な表現の技能】 ・色彩と配色について理解することができるか。	・配布する色彩理論のプリントを使用して学習します。
11		(4) ポスターの制作 ・制作の意図を的確な構成と色彩で表現します。	【創造的な表現の技能】 ・表現材料や用具の使い方を理解し、デザイン的な感性や技能を身に付けることができるか。	・アクリルガッシュを使用します。 ・配色カードを使用します。 ・A3のアーティストパネルを使用します。
11		(5) レポートとプレゼンテーション ・環境問題のレポートとポスターの制作意図や制作過程について発表します。 ・発表された作品を親ながらお互いのよいところを鑑賞します。	【芸術的な感受や表現の工夫】 ・プレゼンテーションの仕方を工夫しわかりやすく発表することができるか。 【鑑賞の能力】 ・互いの作品を鑑賞し、批評しあうことができるか。	・作品の発表会をします。 ・鑑賞カードへの記入を行います。 ◆校内作品展
12	□鑑賞 「作家研究～現代美術」 6h	・現代美術の作家や作品を鑑賞することにより、幅広い表現の可能性を発見し自己の表現に活かします。 ・一人の作家について研究しレポートにまとめます。	【鑑賞の能力】 ・現代美術の多様な表現活動や作品などを理解できるか。 ・作家の心情や生き方などに触れることができるか。	・現代美術作品のスライドを鑑賞します。 ・作家研究レポートを作成します。
1	□映像メディア 「コラージュ作品を作ろう」 12h	(1) 資料の収集 ・テーマを設定し写真や雑誌等の資料を集めます。	【関心・意欲・態度】 ・自分の考えをまとめ明確なテーマを選ぶことができるか。	・制作カードを作成します。 ・デジタルカメラ、インスタントカメラ、コピー機器を使用して学習を進めます。
2		(2) 構想 ・タイトル文字やレイアウトを工夫します。	【芸術的な感受や表現の工夫】 ・計画的に作業を進めるとともに効果的な表現の工夫ができるか。	・B4のイラストボードを使用します。
3		(3) パネル制作 ・テーマが明確になるようにコラージュの効果的な工夫を考えます。		
3		(4) 完成作品の鑑賞 ・仕上がった友人の作品を見ながら、お互いのよいところを鑑賞し批評しあいます。	【鑑賞の能力】 ・互いの作品を鑑賞し、批評しあうことができるか。	・鑑賞カードへの記入を行います。 ◆校内作品展

ウ 書道 I のシラバスの例

教科名	芸術	科目名	書道 I	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。			
履修学年	第 1 学年	学科・コース	〇〇〇〇	
単位数	2 単位	授業形態	全体指導・個別指導	
教科書	〇〇〇〇	副教材等	書道資料集	
1 学習の目標				
(1) 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てます。 (2) 書に親しむ活動を通して感性を豊かにし、様々な場面に対応する書写能力を高めます。 (3) 自己を主体的に表現する能力と書の美しさを感じ取る鑑賞の基礎的な能力を伸ばします。				
2 学習内容と進め方				
文字を素材とした書写活動が中心となります。さまざまな題材について、表現のねらいを持ちながら、自己表現を展開していきます。 (1) 「漢字仮名交じりの書」の学習では、身近な言葉から題材をとって、書に親しむ積極的な態度を身に付けます。用具・用材と表現との基本的なかかわりを理解し、自らねらいを持って作品制作にあたる態度を身に付けます。 (2) 「漢字の書」の学習では、様々な書体の古典に触れることで、書に対する理解の幅を広げ、書写技能も高めます。そこで得た技法などを生かして、創作作品の制作につなげていきます。 (3) 「仮名の書」の学習では、その成立や名筆の書に触れることを通して、私たちの日常使用している仮名文字について学んでいきます。 (4) 書写の活動のみならず、身近な手書きの文字や名筆の鑑賞、篆刻、その他、書道の幅広い活動を通して、書道に対する興味や関心を高めていきます。				
3 学習の留意点				
(1) 「表現すること」(書くこと)が主体となりますが、単に「書くこと」のみではなく、表現の「ねらい」や「課題」を明確にした上で、表現活動を進めていきます。そのために、毎時間の学習内容を「学習ノート」に記録し、作品もファイルしていくことにより学習の経過を振り返ることができるようにします。 (2) 書道で学習したことを日常生活に生かすという視点から、身近な手書き文字や看板の文字など文字を素材とした表現に対して注意を向けましょう。 (3) 創作において、題材となる語句・詩文は自己の表現と密接な関係があります。日常から関心を持つとともに、自分らしさを生かせるような選択を心がけましょう。 (4) 書は、筆や墨、紙など、用具・用材によって表現されるものであるため、日常から用具等を大切にしよう心がけましょう。				
4 評価の方法				
提出作品、「学習ノート」、日常の学習活動への参加態度をもとに総合的に評価します。単元によって違いはありますが、基本的に次のような方法で評価します。 (1) 提出作品から単元の目標がどのくらい達成されているかを評価します。 (2) 「学習ノート(制作カード)」と提出作品から、記載の状況や、どのように自分の課題を設定し、どのようにそれを工夫し、作品に反映させていったかを評価します。 (3) 「学習ノート(鑑賞カード)」の自己評価や友人の作品に対しての感想などから、どのように鑑賞が深まったかを評価します。 (4) 用具の扱いも含め、日常の学習活動へ積極的に取り組んでいるかどうかを評価します。				
5 授業計画				
月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
4	<input type="checkbox"/> 書道の学習について 2 h ・書の芸術性 ・書分野 ・古典と臨書の意義 ・用具・用材について	・書写と書道の関連と相違について確認します。 ・書の美の要素を学習します。 ・漢字仮名交じり書、漢字の書、仮名の書の3分野を知り、さらに古典とその臨書、用具・用材について知り、書道学習の意義とその方法を学習します。	【関心・意欲・態度】 ・さまざまな書に関心を持ち、これからの書道の学習に対して意欲を持つことができるか。	・中学校国語科書写との関連を確認します。 ・書写経験に関するアンケートを実施します。

月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
5	□漢字仮名交じりの書の学習(1) 8h ①書で自己表現しよう ・入学した思いを硬筆と毛筆で書いてみよう。 ②筆による表現の力 ・「手紙・葉書」 ・用筆法による線質の違い ・用具・用材による表現の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・整齊な表現(実用書)と意図に応じた表現(芸術的な書)を書くことから、毛筆の表現の多様性を学習します。 ・自分の意図する表現に不足するものは何かを確認します。 ・書かれた文字から感じたイメージをまとめます。 ・用筆法や用具・用材の違いによる線質の変化を学習します。 ・言葉から受けるイメージをまとめ、自分の意図に基づく表現を試みます。 	【関心・意欲・態度】 ・自分の言葉で表現する姿勢を持っているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・用筆法の違いや用具・用材によって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・芸術的な表現や実用的な表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現できるか。 【鑑賞の能力】 ・作品を客観的に観察し、よりよい表現を追求することができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・制作カードを使い、題材に対するイメージをまとめます。
6	□漢字の書の学習(1) 16h ①楷書の学習 ・様々な書風 ・厳正な書と温雅な書(九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑) ・重厚な書と軽快な書(建中帖・雁塔聖教序) ・方勢と円勢(牛嶺造像記・鄭妻下碑)	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の臨書と鑑賞を通して、多様な表現の可能性を学習します。 ・古典の作者や時代背景などの学習を通して、基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を確認します。 ・特徴の異なる古典を比較分析することで文字造形や線質の違いを感じ取り、表現します。 ・毛筆の弾力性とその特性を生かした書を書きます。 ・行書の筆脈を意識し、穏やかで流麗な運筆で書きます。 ・筆者の心の動きや個性が現れていることを学習します。 	【関心・意欲・態度】 ・臨書の意義や、古典学習の方法を理解し、臨書学習を通して表現技法を高めようとしているか。 ・漢字の書体の変遷に関心を持っているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・それぞれの古典の特徴をとらえて書こうとしているか。 【創造的な表現の技能】 ・楷書の基本用筆を習得しているか。 ・向勢、背勢、方勢、円勢を理解し、それぞれその違いを表現できているか。 ・行書の基本用筆を習得しているか。 ・毛筆の柔らかさを生かした運筆ができているか。 ・隸書の基本用筆を習得しているか。 【鑑賞の能力】 ・古典の美に対する第一印象を大切にし、その良さを味わうことができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の時代背景の学習は世界史や日本史の学習と関連があります。 ・各古典を比較鑑賞し、鑑賞カードに特徴をまとめます。
7	②行書の学習 ・行書の特徴 ・蘭亭序 ・争坐位稿 ・風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・書体の変遷を学習します。 ・他の書体との相違、特有の筆使いや点画の組み立て方を意識して書きます。 	【関心・意欲・態度】 ・自分の個性を生かすことのできる古典を主体的に選択できるか。 ・主体的な活動を通して創作活動の楽しさや難しさを味わうことができるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・選択した古典の特徴をとらえて書こうとしているか。 ・設定した題材に対するイメージを持っているか。	
8	③隸書の学習 ・隸書の成立と特徴 ・曹全碑 ・木簡	<ul style="list-style-type: none"> ・相互鑑賞を通して、自分に生かし、互いに高め合う姿勢を持ちます。 	【創造的な表現の技能】 ・文字の大小や墨量の変化などに留意しながら半折画仙紙に臨書しているか。 ・意図に応じた表現の工夫をしているか。 【鑑賞の能力】 ・完成した自他の作品を分析的に鑑賞し、客観的に評価できるか。	
9	□漢字の書の学習(2) 8h ①条幅作品(臨書)の制作 ・作品の鑑賞 ②少字数(創作)の制作 ・作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した楷書・行書・隸書の古典の中から選択し、条幅作品を制作します。 ・文字の配置や墨量を工夫して半折画仙紙に書きます。 ・作品鑑賞を通して古典の特徴を再確認します。 	【関心・意欲・態度】 ・自分の個性を生かすことのできる古典を主体的に選択できるか。 ・主体的な活動を通して創作活動の楽しさや難しさを味わうことができるか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・選択した古典の特徴をとらえて書こうとしているか。 ・設定した題材に対するイメージを持っているか。 【創造的な表現の技能】 ・文字の大小や墨量の変化などに留意しながら半折画仙紙に臨書しているか。 ・意図に応じた表現の工夫をしているか。 【鑑賞の能力】 ・完成した自他の作品を分析的に鑑賞し、客観的に評価できるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全員で完成した条幅作品の鑑賞を行います。 ・鑑賞カードに自他の条幅作品の批評をまとめます。 ・制作カードを使い、イメージをまとめます。 ・鑑賞カードに自他の創作作品の批評をまとめます。

月	単元	具体的な学習内容	評価の観点	備考
10	<input type="checkbox"/> 仮名の書の学習 8 h ① 仮名の成立と発達 ② 単体と連綿 ③ 変体仮名 ④ 名筆の臨書と鑑賞 ・高野切第三種 ・蓬萊切 ・寸松庵色紙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の成立と発達、種類や字源について学習します。 ・ いろは歌で仮名の基本用筆を学習します。 ・ 連綿の基本を学習します。 ・ 変体仮名で自分の名前を書きます。 ・ 平安時代の名筆の鑑賞を通して、連綿や全体構成など、仮名の美しさの要素を学習します。 ・ 平仮名を中心とした名筆を臨書します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【意欲・関心・態度】 ・ 日本独自の文化である仮名の得の美に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・ 仮名の用筆法、運筆のリズムを理解し、工夫して書こうとしているか。 【創造的な表現の技能】 ・ 平仮名と変体仮名を用いて、単体と連綿で名前を書くことができるか。 ・ 仮名の技法を生かし、繊細な線で臨書できるか。 【鑑賞の能力】 ・ 日本独自の仮名の書の美しさを味わうことができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字から平仮名への発展は国語や日本史の学習と関連があります。 ・ 仮名の授業では、墨は自分で磨墨して作ります。 ・ 鑑賞カードに各作品の特徴をまとめます。
11	<input type="checkbox"/> 篆刻の学習 6 h ・ 篆書体について ・ 落款の役割 ・ 篆刻の用具・用材 ・ 印の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・ 篆書体の特徴を学習します。 ・ 署名と印の役割やその効果を学習します。 ・ 篆刻に用いる用具・用材について学習します。 ・ 自分の作品に使う名前の印を制作します。 	<ul style="list-style-type: none"> 【意欲・関心・態度】 ・ 篆書体に関心を持ち、自分の作品に使う落款印を意欲的に制作できるか。 【創造的な表現の技能】 ・ 字書を利用して名前を調べ、文字空間を工夫して印を制作することができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界史の学習と関連があります。 ・ 制作カードを利用して作業を進めます。
12	<input type="checkbox"/> 漢字仮名交じりの書の学習(2) 18 h ① さまざまな表現方法 ・ 漢字的、仮名的表現 ・ 古典の応用 ・ 用筆、運筆の工夫 ・ 用具・用材の工夫 ・ 文字の大きさと配置の工夫 ② 作品制作 ③ 作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねらいに応じた線質で表現できるようにします。 ・ 用具・用材の種類や特徴を確認し、効果的に使えるようにします。 ・ 身近な言葉や詩文を題材にして漢字と仮名の調和を図り、字形・文字の大きさ等の全体構成を工夫することで、自分の意図に基づく自分らしい表現を試みます。 ・ 相互鑑賞を通して、自分に生かし、互いに高め合う姿勢を持ちます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【意欲・関心・態度】 ・ 創作活動の楽しさを味わい、生き生きとした表現を獲得しようとしているか。 ・ 自分の感性に基づく題材を用意し、よりよい表現を求めようとしているか。 【芸術的な感受や表現の工夫】 ・ 感性を豊かにし、漢字仮名交じり書の美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫しているか。 【創造的な表現の技能】 ・ 漢字と仮名の調和を図っているか。 ・ 意図に応じた構成、用具・用材の工夫ができているか。 【鑑賞の能力】 ・ 完成した自他の作品を客観的に評価しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材となる詩句を自分で取材してきます。 ・ 制作カードに題材に対するイメージなどを記入するとともに、完成までの過程をまとめます。 ・ 筆や紙は数種類用意します。 ・ 鑑賞カードに自他の作品の批評をまとめます。
3	<input type="checkbox"/> 書道Ⅰのまとめ 4 h ・ 生活の中の書 ・ 表装について ・ 作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な手書きの文字や書作品について考察し、その効果や存在意義を考えます。 ・ この一年で制作した作品を自分で表装します。 ・ 表装した作品の相互鑑賞を通して、自分に生かし、互いに高め合う姿勢を持ちます。 	<ul style="list-style-type: none"> 【意欲・関心・態度】 ・ 表装による効果を理解し、書を生活空間に生かす姿勢を持っているか。 ・ 自己の作品を見つめ、今後に生かそうとしているか。 【鑑賞の能力】 ・ 手書きの書が持つ人間性や暖かさ、潤いやゆとり、親しみ易さ、美的効果を感じ取っているか。 ・ 自他の作品から自分らしさ、その人らしさを感じ取れるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書道Ⅰで学習した内容をファイルの作品を鑑賞しながら振り返ります。 ・ 表装した作品を校内に展示します。